

ワンポイントより

①**社会のインフラ、老朽化進む**。八潮市の道路陥没のように、全国の橋・トンネル・道路の多くが耐用年数を超える。「線路の枕木がくさって事故が発生。背景に国鉄民営化。」(参加者より)cの補填を理論的に説明できないと手薄になる。マルクスは労働の二重性で説明。

②**リナックス創始者“公開が技術を育てる。” これこそ科学技術の社会主義的利用のあり方。**

中国のAI企業ディープシークが、論理的思考型AIを発表。米国AIの儲け主義に対し、モデルの中身を公開し、改造できる「オープンソース」。技術・人材で中国が米国を猛迫する。

③**石破首相、「楽しい日本」を掲げるも、「悲観論」が若い世代に特に顕著**。この傾向は、ドイツ右翼政党進出、米国のトランプ勝利のように、希望を持たない有権者をポピュリズムに向かわせる。しかし、反移民・反EUでは苦しい生活の本当の原因はつかめない。背景には新自由主義的経済政策の失敗がある。

第2篇 資本の回転

第1篇では資本を水のように流れるものと想定したが第2篇では、固定資本を含めて考察。

第8章 固定資本と流動資本**・固定資本の償却基金についてのマルクス理論発展史**

1864年、第1草稿:「償却基金は資本蓄積に役立つ」と従来の経済学の考え方を受け継ぐ。

1867年、エンゲルスに紡績工場での固定資本補填の実際(紡錘の例)をたずね、従来の考えを修正。

結論:「固定資本の一部は部分的更新が可能で、償却基金を早期に現物更新に利用できる(鉄道レール・紡錘など)。この部分は事業の拡張・機械の改良に役立つ。その程度は、その事業経営の独特な性質による。」

償却基金論争は、固定資本の規定の前提から逸脱。「固定資本増大に回すとそれだけ流動資本も増大させなければならない。現場ではありえない。」(zoom受講生から)

・恐慌やく10年周期、なぜ? 資本の背骨をなす固定資本循環、約10年に基づくーマルクス**第10章 固定資本と流動資本に関する諸学説 スミス・古典派**

・経済規定を素材の性質と取り違える。労働力は、回転の仕方で流動資本であるが、スミスは流動資本を流通資本(商品・貨幣)と混同し、商品としては労働力が見出せず、生活手段に置き換えかえて捉えた。→労働元本説:前年の生産物は決まっている。→原資として、賃金抑制・成果主義賃金。(資本家にとっては最も望ましい賃金のあり方。)

搾取の神秘化:古典派は資本の区分が固定・流動しかない。(不変・可変の区別なし)

第12章 労働期間 労働期間の短縮:羊の肥やし飼い・ケンタッキーの鶏、飼育期間1/3

第13章 生産時間 労働期間+自然過程にゆだねられる生産期間(酒の醸造・漂白・造林)

第14章 流通時間 流通は生産の空費。限りなく短縮が資本の利益、願い。

第15章 回転時間 (生産時間+流通時間) 交通の発達で経済距離が短縮される。